国際センター

2025 年度　国際交流活動報告

早野曜子

2025 年度、国際センターとして 13 プログラムを実施した。
国際センターは「自由学園を世界に、世界の課題をキャンパスに」という標語のもと２０１６年に発足した。学校間協定に基づく「海外渡航」「留学生受け入れ」「海外研修」「英語・体操のティーチングアシスタント受け入れ」を実施した。交換交流プログラムは、交流先の担当者との長年にわたる信頼関係の上に継続してきた。マスターズスクールとの交流は今年度で一区切りとなった。一方ネパールワークキャンプは新たな形でのプログラム実施となった。今年実施したプログラムについて報告する。

Ⅰ　学校間交流

1　米国ニューヨーク短期留学

期間　3 月 25 日(火)-4 月 6 日(日)
参加生徒　高等部 1 年　2 名
　　高等部 2 年　2 名
　　引率　高松功太郎(高等部英語科)
　　(同行者あり)



1-1　　留学した生徒

ニューヨーク滞在中は、私立学校のマスターズスクールの生徒家庭にホームステイしながら、マスターズスクールの授業参加、1日はニューヨークのブロンクスにある公立校のワールドビューハイスクールへ訪問し交流した。

米国ニューヨーク留学では、事前にNY州の基準である予防接種が義務付けられ、生徒への負担は大きかったが、その結果、短期滞在でありながら米国の高校の通常授業に参加することが可能となった。

本プログラムは 2017 年から始まり、受け入れ校担当者であるフィッシュ先生ご夫妻のご尽力により実現できた。先生ご夫妻の異動により、今後マスターズスクールとの交流継続は難しくなったが、これまで計5回 20 名の生徒 5 名の教員が同校で学ぶ機会を得られたことに深く感謝したい。



1-2　マスターズスクールダンスの授業



1-3　マスターズスクールの授業・校長先生との対話

滞在中の報告

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88909
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88931
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88938
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88949



1-4 WVHS 日本語授業での交流



1-5 WVHS での交流



1-6 マスターズスクールでの交流









1-7　ホストファミリーと

2　米国 ワールドビューハイスクール（WVHS）来校交流

期間　2025 年 4 月 13 日（日）

生徒　高等部 2 年　8 名　高等部 3 年 4 名　計 12 名

WVHS 生徒　14 名　引率・ツアガイド

新年度始まった最初の日曜日だったこともあり、交流希望者と、春休みに現地で交流した人を中心に相互交流した。10 時に来校し、その後、お習字・UNO・折り紙などで交流し、午後は原宿から渋谷を案内した。国際交流に参加した生徒は、「初めは結構みんな緊張してたけど、UNO をやったら楽しくてみんなの緊張がほぐれた気がした。楽しいことをやるのは本当に大切だなと思った。」「初めて国際交流会に参加して、前からずっと不安で緊張してました。自分の英語にも全然自信がなくて、なんて話しかけたらいいのか、話そうと思ってもそれを英語に出来ない実践の少なさを感じました。交流会自体は私も一緒に楽しませて貰ったなという感じです。話せなくても同じものをするだけでコミュニケーションはとることができました。」との感想があった。



2-1　交流の様子



2-2 お習字体験

交流の詳細 https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88971

3　フィンランド留学生受け入れ

期間　6月1日(日)-6月 14 日(土)
生徒　ヤネッタ (F),
　　アンニ (F)
　　アイノ (F),
　　ユリウス (M) 合計 4 名



3-1 ホストファミリーと受け入れ生徒



3-2 最高学部生と農芸体験



3-3 イギリスからの短期留学生・TA を交えてお習字体験



3-4 初等部 6 年との交流



3-5 保護者のボランティアによる茶道体験

高等部2年 4 家庭　高等部 3 年1家庭がホストファミリーとして留学生を受け入れてくださった。フィンランドの生徒にとって、電車での通学は日本ならではの体験となった。ホストファミリーの生徒に加え、夏にフィンランド留学予定の 4 名が協力して受け入れた。2週間の授業では、高2・高3の英語・美術・スポーツ・体操・保健・数学などの授業参加のほか、初等部6年生との交流や最高学部生との農芸実習など、他部との交流や、お習字や茶道、日本語を学部ぶ機会もあり、一貫校ならではの幅の広い体験を持つことができた。印象的だったのは、ヤネッタは物静かで、表情から気持ちを察することが難しくホストファミリーはコミュニケーションに苦労したが、送別会の際、彼女が作った詩をユリウスが朗読し、この2週間の滞在が彼女にとり貴重で楽しい経験であったことがわかった。「詩」は、言葉を超えて気持ちが伝わるプレゼントとなった。

Summer greeted us with open arms,
not just with heat,

but with new, unfamiliar streets to wander.
and beyond the crowded trains,
waited something we couldn't have planned for: quiet kindness and warm smiles

In the classroom,we couldn't always find the right words,
but we found friends.
We fumbled, we laughed,
we listened –and somehow, we belonged.
We expected adventure.
But ended up finding connection.

Now, we leave with more than photos.
We carry the warmth of people, the quiet strength of a different way of life, and the simple truth: we came here as guests,
Now, we leave as part of a story we'll never forget.

So, thank you.
for every "Moi",
every kindness,
every memory.
　夏は両手を広げて私たちを迎えてくれた
暑さだけでなく、これからさまよう新鮮で見慣れぬ道と共に
満員電車は予期していた
　けれどそれ以上に思いもしないものが待っていた ― 静かな優しさと、あたたかな笑顔だ

教室の中で
私たちは言いたい言葉を見つけられなかった
けれど友達を見つけた
私たちは何かをし損なったり、笑ったり、真剣に耳を傾けた
　そして(どうしてそうできたのかは分からない)、一員になれた

私たちは冒険を求めていた
けれどここで見つけたのは、単なる冒険ではない、人との繋がりだった
　今、私たちには、写真に残る以上のものが残っている
私たちはここにいる人々の温かさを持ち帰ることができる
全く違う人生の生き方、その静かな強さを持ち帰ることができる
そして一つのシンプルな真実、
私たちはただのゲストとしてここに来たはずだった
今、私たちは一生忘れることのない物語の一部として、ここを去る
だから、ありがとう
全てのモイ(こんにちは！)に
一つ一つの優しさと
一つ一つの思い出に

（小川　顕　訳）

交流の詳細:https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89080
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89166
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89223

4　フィンランド短期留学（アラヤルヴィ高校）

期間 8 月 14 日(木)-8 月 29 日(土)
　高等部 2 年　2 名
　高等部 3 年　2 名　　合計4名
　8 月 14 日成田空港からヘルシンキ経由でヴァーサへ向かい、空港でホストファミリーが出迎えてくれた。アラヤルヴィ高校とヴィンペリ高校は湖を挟んで対岸に位置し、マルコ・ティモ先生が両校長を兼任している。
　約2週間の滞在中、アラヤルヴィ高校で音楽・美術・フィンランド語の授業参加、日本語クラスとの交流、ヴィンペリ高校 1 日訪問を行った。今年は、第2次世界大戦終結後 80 年にあたり、受け入れ担当の Emmi 先生にお願いし、アラヤルヴィに近い戦争跡の見学も行った。(詳細は巻頭特集)
　参加した生徒はフィンランドでのライフワークバランスの取れた暮らしから、自分たちの置かれた環境を別の角度から見直すことにつながったようだ。
「日本は働きすぎず、教育環境を変えれば本当に幸せになれるのか。なぜ自由学園は週に 6 日もあるのか。楽しい学校は十分に休む時間が取れていないと始まらないと感じる。日本にいるとなぜ忙しない雰囲気を感じるのか。感じているのが自分だけかもしれないが、住んでいると常に何かに追われているような気持ちになる。」
　なぜフィンランドが世界で 1 番幸せな国なのか、について考えさせられたようだ。


4-1 授業の様子


4-2 フリスビーの授業



4-3 フィンランドの森の小屋で

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89459
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89470
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89555
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89585
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89610
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89619

Ⅱ派遣プログラム

５　英国チェルトナムレイディーズカレッジ（CLC）短期留学

期間　6 月 20 日(金) －7 月 5 日(土)

参加生徒　高等部 2 年 1 名　　高等部 3 年 1 名

昨年に続き2度目の留学となった。CLC では、高橋弥生先生の日本語生徒がバディとなり、理数系の授業や哲学やフランス語など日本で経験のない授業にも参加した。授業とは双方向の対話であることに気がついたなど、異なる学校体験で様々な気づきがあった。



5-1 日本語クラスの生徒と



5-2　日本語クラスの様子



5-3 日本についてのプレゼンテーション

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89266
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89289

Ⅲ 研修プログラム

６　カンボジア研修

期間　7 月 24 日(木)ー7 月 31 日(木)
生徒:　高等部 1 年　13 名
教師:　大畑方人　中川李梨子(高等部社会科)2 名
　　現地スタッフ 2 名

この研修はカンボジアの都市部と地方の生活を体験し、豊かさとは何か、幸せとは何かを考えることを目的としている。カンボジアの歴史を学び、未来に向けてどのように平和を構築していかれるかを考える。多様な人との出会いと交流を通し、他者理解、尊重心を育むことを目的に、2017 年から実施している。



6-1 アンコールワット遺跡見学





6-2 学校での交流の様子



6-3 福祉施設 FLO で修了書の授与

現地では、キリングフィールド博物館見学(詳細は巻頭特集参照)アンコールワット遺跡見学,FLO 福祉施設訪問し子どもたちとの交流、食事作りや小学校でのボランティア活動などを行った。

初海外経験の参加者が多かったが、事故や体調不良者は出なかった。各所への現地訪問や交流の機会が多くあり異文化理解や主体的なコミュニケーション力が育まれ、生徒たちは多様な価値観に対する寛容さや気づきを得ることができた.

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89333
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89348
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89359

7　ネパールワークキャンプ

期間　7月 25 日(金) - 8 月 5 日(火)
生徒　高等部 2 年　2 名, 高等部 3 年　1 名
　　最高学部 1 年　3 名、4 年　1名
引率　神明久　小田幸子　合計　9名

今年度よりアジア協会のプログラムに従い、カトマンズの大学生と共同で、シンドゥパラチョーク郡インドラワティ村の産業支援や土砂崩れの対策や安全教育を実施。ネパールの生活や課題に直接触れ、ネパールに対する理解を深めるとともに、国際協力の現場から今後自分としてどのようなかかわりができるかを考えるきっかけとすることを目的に、ワークキャンプを実施した。

今回、National college の学生とバディを組み、活動を実施した。これが成功の大きな要因だった。また、地元の防災についての取り組みを通し、ネパールの災害に関する体制をよりリアルに学ぶことができた。

一方、アジア協会のプログラムへの参加であるため、中心なってくださった熱田さんに多くの部分を頼っており、熱田さんの協力が得られない場合、活動の継続は難しいことが課題である。今後、学部が現在進めている共生共創プログラムの海外バージョンとして発展させることが望まれる。



7-1 ナショナルカレッジの学生と



7-2 バディと一緒にコーヒーを植林



7-3 村での生活聞き取り調査

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89345

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89365

８　デンマーク研修

期間　8 月 14 日(木)～8 月 28 日(木)

生徒　高等部 2 年　18 名

　　高等部 3 年　6 名　　生徒 24 名

引率　早野曜子 渡邊祐太(引率 2 名)　合計 26 名

研修前半はフュン島にあるオレロップ体育アカデミーの寮に滞在し、村の幼稚園、ケアホームを訪問した。8 月 22 日には 100% 自然エネルギー利用の Ærø 島を訪問、太陽光による地域暖房システムや風力発電施設を見学し、環境問題への理解を深めた。スベンボーでは救貧院を見学した。1872 年から 1974 年まで運営されていた施設で、高福祉国家に至るまでのデンマークの歴史を学んだ。またオレロップに保存されている第2次大戦時に使用された防空壕を見学し、保存会の方からオレロップの第2次対戦時の様子を伺った。最高学部でデンマーク語を教えてくださっているリセ・スコウ先生がデンマーク滞在中であったため、デンマーク語から直接日本語へ通訳していただき、より詳しい様子を伺うことができた。(詳細は巻頭特集)





8-1 オレロップでの講義　　8-2 オレロップ幼稚園見学





8-3 スベンボーの救護院　8-4 エーロ島地域暖房の説明



8-5 風力発電

後半はコペンハーゲンから 40 分に位置するアレロッド高校を訪問し、生徒はホームステイを体験した。同世代との交流は、言語を超えて共通する話題への共感など、共通語の英語を通じて、理解を深めることができた。今年の参加人数は 24 名で、男女ほぼ同数であった。アレロッド高校の生徒とも活発な交流ができ、次回へ繋がる研修となった。



8-6 アレロッド高校の生徒と



8-7 ダンス授業の様子



9-2 幼児生活団の園児と



8-8 コペンハーゲンでアレロッド高校生と記念写真

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89473
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89483
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89565
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89589
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89601



9-3 学部生と交流



9-4 中等部　授業の様子アイルランドについて

Ⅳ 英語ティーチング・アシスタント

9. 春期　英語 TA 期間　4 月 8 日―7 月 22 日

Darcy Goulston. Winchester College

Rupert Assheton Winchester College



9-1 ダーシー（左）ルパート（右）2018 年 TA（中央）



9-5　アイリッシュダンスの体験



9-6　高等部の授業の様子



9-7 放課後の ESS（英会話）

1383 年に創立されたウィンチェスターカレッジは 3 年前に共学化し、ダーシーは最初の女子卒業生である。彼女の積極的な取り組みと明るい性格で、生徒たちは楽しみながら英語を学ぶことができた。またルパートも子供達から慕われ、丁寧な対応で生徒の英語学習をサポートした。



詳細　https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88967
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/88994
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89055
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89291

10 秋期英語 TA

期間　9 月 19 日ー12 月 23 日

ジェシカ・カバンディシュ　(Haberdashers'Girls School)
9 月 15 日-

ハリエット・キーン　(Cheltenham Ladies College)
10 月 1 日-

10-1 ジェシカ(左)とハッティ（右）



10-2 授業の様子



10-3 ESS でジンジャークッキーつくり



10-4 イギリスのクリスマスランチを体験

ジェシカはハバタシャーガールズスクール出身で、2020年に来校予定であったが、コロナ感染症のために来日ができず、今回来校することとなった。栄養学の修士号を持つジェシカは 12 月に、最高学部の昼食でイギリスのクリスマスランチをプロデュースしてくれた。メニューだけでなく、クリスマスの王冠やジョークの入っているクラッカーを手作りし、皆でイギリスの食文化を楽しんだ。一方、ハリエットは、チェルトナム・レイディーズ・カレッジを 2025 年 6 月に卒業し、10 月から 12 月まで滞在した。明るく積極的なジェシカと朗らかで優しいハリエットは、それぞれの持ち味を活かし、児童・生徒学生と交流し、良い刺激となった。

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89878
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/90187
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/90231
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/90242

V デンマークオレロップ体育アカデミー交換交流

オレロップ体育アカデミーとは 1931 年以来、交流を継続している。2024 年には、学校間交流協定書を更新した。デンマークからは、毎年 9 月―12 月までオレロップ体育アカデミーを卒業した若手指導者 OD が学園に滞在し、体操指導にあたっている。また最高学部からはオレロップ奨学金を得て秋コース(8 月―12 月)の期間滞在している。

11　デンマーク体操 TA

期間　8 月 30 日―12 月 23 日
来校者　サラ・ウォルフ　(21)
　　ウィリアム・ダール　(22)



11-1 体操会の日に DGI 会長と

9 月 1 日より、高等部の体操指導および最高学部の体操を指導した。体操会では、ウィリアムが高等部徒手体操、サラはクラブ体操、そして 2 名で最高学部全員体操を振り付け、指導した。今年の体操会は、あいにくの雨模様となったが、デンマーク体操協会会長のアスビィア氏が来校され、学園で現在も続くデンマーク体操の演技と、TA2 人の活躍を見ていただくことができた。

体操会後は、幼児生活団・初等部・中等部・高等部・最高学部での体操指導や、全国友の会主催で、神戸・富山・佐久・高松・千葉・京都へ行き、デンマーク体操ワークショップを行った。11 月 16 日には最高学部生と一緒に、代々木第1体育館で開催された日本体操祭に参加出演し、日本での体操文化に触れる機会となった。



11-2 体操会に向けて指導（最高学部）



11-3 体操会に向けて指導



11-4 幼児生活団での指導



11-5 最高学部生と日本体操祭に参加



11-6 初等部での指導



11-7 デンマーク体操ワークショップ

英語助手の２名と体操 TA の２名は最高学部の学生寮に滞在し、学部生とも交友を深める機会となった。

詳細　https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89658
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89881
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/90112
https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/90253

12　オレロップ体育アカデミー奨学生派遣

オレロップ体育アカデミーの 2025 年秋コースには、最高学部生５名が奨学金を得て留学している。
期間　2025 年８月７日-12 月 16 日
最高学部３年　３名　　学部４年　１名　合計４名



12-1 オレロップの食堂にて

学生の感想

「これまでの経験からは予測できない物事に取り組むこと“コンフォートゾーン”から一歩出ていくということは、自分にとって思っていた以上に不安や恐れを伴うことで、大きな挑戦であるとともに、それが新たな変化をもたらすということを、身に染みて学ばされる日々であった。自分とは異なる背景（文化・生活習慣・言語など）を持つ人々との関係の中で、「わからない」「違う」「共感できる」「同じ」を行ったり来たりしながら、少しずつ周りの仲間たちと信頼関係をきずいて

いくという経験、主となるリズム&ダンスのクラスにて、「上手である・完璧である」ということ以外にも、仲間と助け合う・失敗を楽しむということに価値を見いだせたことなど、これまで培ってきた視点や価値観をブラッシュアップしてくれるような出来事を多く経験した。ここでの毎日、一瞬一瞬は血となり肉となり、今まで築かれてきた私という人間の上にさらにまた新しい自分を構築しているようだった。」

「心に解放感が生まれた理由を探した時、人をジャッジしないということが自分をありのままでいていいと思えることに繋がることに気づいた。」

体育アカデミーの正式名称は“Gymnastikhøjskole i Ollerup”で、フォルケホイスコーレである。デンマーク独自の教育機関で、17 歳半を超えた人が誰でも学ぶことができる。

寮生活を通して生活を共にし、対話を通し互いに学びあい、自己を発見していくプロセスを大切にしている。現在3名は継続してオレロップの春コースをとっている。

Ⅶその他

13　イギリス　短期留学生受け入れ

期間 6 月 1 日(日)―6 月 7 日(土)

来校者　サイモン・テンパリー　(16)

サイモン君の父親のジョン＝ポール・テンパリー氏が約30年前に英語 TA として滞在した経験で、短期留学受け入れとなった。滞在中は、高等部 1 年生のクラスに入り、一緒に授業を体験。東天寮にも滞在した。

滞在中の詳細

https://www.jiyu.ac.jp/blog/intl/89114

2025 年度来訪者

6 月 7 日　サイモンの父ジョン＝ポール氏来校
10 月11日　DGI(デンマーク体操協会)会長　体操会見学
11 月 11 日　フィンランド　アラヤルヴィ高校エンミ先生
12 月 18 日　イギリス　CLC　高橋弥生先生
など合計 17 名が来校された。

まとめ

受け入れ校の先生をはじめ、国際情勢の緊張や円安による費用高騰という厳しい状況の中、保護者の理解と協力のもと、参加した生徒・学生の安全が守られ、すべてのプログラムを無事に終了できたことに感謝したい。

2025 年度に実施した国際交流プログラムでは、これまで続けてきた米国マスターズスクール留学が最後となった。あらためて担当してくださったフィッシュ先生ご夫妻に心より感謝の意を表したい。

夏に実施したネパール・ワークキャンプは、高校生も参加する新たな形での取り組みとなった。

第二次世界大戦終結から 80 年を迎えた本年に実施したフィンランド留学とデンマーク研修では、 両国における大戦の歴史を現地で直接学ぶ貴重な機会を得た。「世界大戦」と呼ばれる出来事であっても、自国で学ぶ歴史は一部に過ぎず、北欧における第二次世界大戦の実情については、これまで知る機会がほとんどなかったことに気付かされた。戦争が遠い過去の出来事ではなく、今私たちが立っている場所で起きた現実であったと実感したことは、参加者の意識を大きく変える契機となった。(詳細は巻頭特集)

謝辞

国際センター特別顧問として貴重なご助言をくださった木村秀雄先生が 2025 年 10 月に急逝された。

木村秀雄先生は大学での豊富な教育経験に加え、文化人類学者として、また JAICA の理事として海外で培われた幅広い知見をもとに、協定書の重要性や、その内容について常に的確なご助言をくださった。

情報通信の発達により、私たちは世界の出来事を手のひらの中で瞬時に受け取ることができるようになった。

他国の情報を得ることで、出来事を知り、理解した様に感じてしまっているのではないか。

しかし異なる文化を真に理解することは、実際に人と出会い、五感を通し感じ、体験することが不可欠である。 現地に赴き、地域の人々と共に暮らしながら調査を重ねてこられた木村先生が示してくださった世界観を踏まえ、今後も自由学園らしい国際交流を進めて行きたい。

木村秀雄先生への深い感謝とともに、先生がこれからも自由学園の国際教育を見守り導いてくださることを心から願っている。